

# 令和2年度 畜産試験場の業務推進目標

## 基本目標（組織目標）

長野県行政経営理念、しあわせ信州創造プラン 2.0、第3期長野県食と農業農村振興計画に基づき、県民起点で徹底した現場主義を貫いた試験研究、人材育成を推進します。

## 心構え

社会環境の変化に敏感に対応し、業務の改革・改善を進めます。クライアントである県内畜産関係者と積極的なディスカッションとリアルタイムな情報共有を行います。また、高い成果主義とコンプライアンス意識により業務を遂行します。

## 重点目標

第3期長野県食と農業農村振興計画に基づき、高品質な畜産物の効率的な生産と収益性が高い畜産経営の確立に向け、新たな技術の開発や高能力種畜の作出に取り組みます。

### 1 産学官連携による新たな技術の開発と生産現場への普及を進めます。

#### (1) 信州産ブランド畜産物の開発とブランド力の強化

- ・ゲノミック評価と受精卵移植技術を活用して産肉能力に優れた種畜を作出します。
- ・信州黄金シャモの安定供給体制を確立するとともに、食味のバランスが良く発育が良好で早期出荷が可能な地鶏を開発します。
- ・高品質なブランド豚肉の開発を目的として関係者との意見交換や情報収集を積極的に行います。

#### (2) スマート畜産を推進するための先端的な飼養技術の開発と実証

- ・簡易低コストTMR自動給餌機を開発し、飼養管理技術の高度化と省力化を実証します。
- ・ICT等を活用した繁殖管理システムの効果を実証します。

#### (3) アニマルウェルフェアに配慮した飼養管理技術の開発

- ・既存の牛床構造を改造することを前提とした快適な繋ぎ飼い方式のモデルを考案し、その有効性を実証します。
- ・アニマルウェルフェアに配慮した豚・鶏の飼育施設整備を進め、生産性に影響を与えない技術を開発します。

#### (4) 地球温暖化に対応した技術開発

- ・温暖化及び台風など気象変動リスクに対応する飼料作物の生産技術を開発します。
- ・家畜の体内からの温室効果ガス排出を抑制する飼養管理技術の探索に着手します。

#### (5) 生産現場の課題を解決するための技術開発

- ・乳・肉用牛の性選別精液を利用した体内受精卵の受胎率の向上や体外受精卵の選卵・

凍結技術を開発し、優良な受精卵を生産配布します。

- ・信州プレミアム牛肉を増産するため、牛肉中オレイン酸含量を高める技術を開発します。
- ・施肥法の改善などによる水田転換畑における子実とうもろこし増収技術を確立します。
- ・収量性が高く、長野県の気候に適した牧草、飼料用とうもろこし等の飼料作物を選定します。

## 2 組織の活性化、県民や関係団体との連携・協働、その他独自の取組

### (1) 国県の研究機関や大学、企業などと連携して先進的な研究開発に努めます。

- ・生産者、畜産機器メーカーと積極的に連携し、先進的な家畜の飼養技術を開発します。
- ・研究連携協定の締結や研究プラットフォームに参画し、次世代を見据えた研究開発を行います。

### (2) 成果の積極的な情報発信に努め、普及組織と協働して農家への技術移転を進めます。

- ・成果にこだわり、得られた成果が県民に見えるよう積極的な情報発信を行います。
- ・普及組織と協働して現地実証試験や技術研修会を実施するなど技術移転を促進するとともに、農家との情報交換会を開催し、生産現場からのフィードバックを今後の技術開発に活かします。

### (3) 県民に信頼されるようコンプライアンスを推進し、職員一人一人が自己研鑽に努めます。